



少年育成センターだより

令和4年12月15日

第27号

坂出市少年育成センター
坂出市久米町1-18-20
TEL 46-2777
FAX 46-7140

平素より、青少年の非行防止や健全育成活動及び少年育成センターに対するご理解と、ご協力をいただいております。心からお礼申し上げます。
子どもたちは、今年度、コロナ禍で3年目の学校生活を送ることとなりました。今夏には第7波の急激な感染者増加も見られましたが、3年ぶりの行動制限のない夏休みとなりました。香川県では、瀬戸内国際芸術祭や四国で開催されたインターハイ、各地の花火大会など、感染対策を取りながら関係者の熱意や尽力のおかげで多くの行事が開催されました。ご家庭でも夏休みにしかできない貴重な体験を久しぶりにご家族で楽しめたのではないかと思います。
文部科学省から10月に公表された「令和3年度 児童生徒の問題行動・不登校調査」では、県内いじめの認知件数、不登校児童生徒の人数、暴力件数ともに増加していました。特にいじめの認知件数は前年度比507件増の3538件で、過去最多となりました。県教委は新型コロナウイルスの影響を指摘し、いじめの増加は積極的な認知を進めたことに加え、「学校生活の制約が前年度より緩和され、子ども同士の対面交流の機会が増えたことが一因」と説明しています。「行動の制約は減ったが、コロナ前に比べるとまだ子ども同士の交流は少なく、ストレスを抱える児童もいる。」「マスクでお互いの表情が見えず、コミュニケーションがとれない」といいます。

この日常は、常に、誰かの良心や善行でできており、その一つ一つに感謝しなさいという意味だと思っただけだ。どんなことに感謝するのかよく分からなかったため、私の家の中で感謝できることを探してみた。毎日おいしいごはんを食べられるのは、作ってくれるから。毎日きれいな服を着られるのは、洗濯してくれるから。塾に行つて勉強を教えてもらえるのは、お金を出してくれたり送迎したりしてくれるから。ずっとそんなの「当たり前」の事だと思つていけれど、改めて考えてみると忙しい時間の中でしてくれているのにも気付かず、手伝いも何もしてこなかった自分が情けなくなつた。
私は、昔から思つたことを無意識のうちにポロポロと言つてしまうことがある。何も考えずに話しているため、相手はどう思うかなどほとんど考えていない。そのせいで、気づいたころには相手を不快な思いにさせてしまつている。気分屋なところもあり、口を開けば喧嘩が始まり物に当たつたことも過去にはある。そのころはもろもろ、家庭内での笑顔など今と比べると少なかった。しかし、部活動を通して学んだ「当たり前前に感謝する」ことを忘れずにいることで、家庭内での喧嘩は大幅に減つた。もちろん、部活動も道具を揃えてくれたり、送迎してくれたったりした家族の支えがあつてこそできていたのだ。
今では、家族の中でダジャレが飛

「相手を大切に思う心」

坂出市少年育成センター 所長 勝浦隆史

健全育成作品

- 口は人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう
○目は人のよいところを見るために使おう
○耳は人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう
○手足は人を助けるために使おう
○心は人の痛みがわかるために使おう
(腰塚勇人「5つの誓い」)



優秀作品の展示

R4.11.7~11.11 小学校の部



R4.11.14~11.18 中学校・高校の部

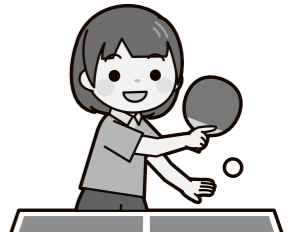
坂出市役所 市民ロビー

Table with columns for Poster, Slogan, Essay, and Total counts for Elementary, Middle, and High School.

応募総数・入賞者数

ができました。卓球部には、部活以外でもすれ違つたら挨拶をするという伝統があります。最初は恥ずかしくて挨拶をすることができずに先輩の姿を見て見ぬ振りをしたりしていました。でも、先輩に挨拶をしている友達の姿を見ていくなると、積極的に自分から挨拶するようになり、積極的に自分から挨拶するようになりました。継続していると、それが習慣になっていきました。挨拶をしただけだと私には足りませんでした。と言われるようにもなりました。言われたときは、うれしかったし、誇らしい気持ちにもなりました。当たり前前のことだけれど私はきつと卓球部に入つてい

だっただけで、人と人とのつながり、相手への思いやり、自分を強く持つということが学べることができました。この思いを持ち続け「人と人とのつながり」を通して今後も成長していきたいと思つています。
「明るい家庭」とは一体、どのような家庭のことだろうか。多くの人は「笑顔の絶えない家庭。」そう言うだろう。今は私もそう思う。だが、少し前までの私は違つていた。
私はこの夏、部活動最後の大会を終え、二年半毎日練習に励んだバレーボール部を引退した。高い目標を掲げて試合に臨んだが負けて引退という悔しい結果になった。そんな中で、私は改めて二年半の部活動を振り返つた。私の所属していたバレーボール部は、技術だけでなく、「人間性」と言う面でも厳しく指導されてきた。その中で私の心に特に強く響き、残つているのは、「すべてに感謝」と「当たり前前のことを当たり前だと思わない」というこの二つである。私はこの二つは繋がつていふと思う。なぜなら、私たちが当たり前前に過



青少年の健全育成作文・特選作品
「いつも、いつも、ありがとう」
附属坂出中三年 今井 瑠菜

いこの日常は、常に、誰かの良心や善行でできており、その一つ一つに感謝しなさいという意味だと思っただけだ。どんなことに感謝するのかよく分からなかったため、私の家の中で感謝できることを探してみた。毎日おいしいごはんを食べられるのは、作ってくれるから。毎日きれいな服を着られるのは、洗濯してくれるから。塾に行つて勉強を教えてもらえるのは、お金を出してくれたり送迎したりしてくれるから。ずっとそんなの「当たり前」の事だと思つていけれど、改めて考えてみると忙しい時間の中でしてくれているのにも気付かず、手伝いも何もしてこなかった自分が情けなくなつた。
私は、昔から思つたことを無意識のうちにポロポロと言つてしまうことがある。何も考えずに話しているため、相手はどう思うかなどほとんど考えていない。そのせいで、気づいたころには相手を不快な思いにさせてしまつている。気分屋なところもあり、口を開けば喧嘩が始まり物に当たつたことも過去にはある。そのころはもろもろ、家庭内での笑顔など今と比べると少なかった。しかし、部活動を通して学んだ「当たり前前に感謝する」ことを忘れずにいることで、家庭内での喧嘩は大幅に減つた。もちろん、部活動も道具を揃えてくれたり、送迎してくれたたりした家族の支えがあつてこそできていたのだ。
今では、家族の中でダジャレが飛

び交つたり、誕生日をみんなでお祝いしたりして、毎日笑顔で溢れている。小さな「当たり前」に目を向け、その一つ一つに感謝することが「明るい家庭」を築くための第一歩なのではないだろうか。感謝すべきことは思つている以上に多く、またそれを言葉にして伝えるのは意外と難しい。生きていることでさえ当たり前前ではないのだから、今のうちに伝えておこう。いつも、いつも、ありがとう。
作文の部 入選者
辻村 咲 (附坂小一年)
伊関 真人 (東部小二年)
林 祐衣 (川津小二年)
小林 楓菜 (東部小三年)
川田 匠真 (川津小四年)
塚田 菜生 (坂出小五年)
西川 栄一 (東部小五年)
池田 葉奈 (東部小六年)
安藤あおい (附坂小六年)
直井 朝陽 (坂出中一年)
松浦 由奈 (東部中一年)
田中 青波 (坂出中二年)
瀬尾 青空 (白峰中二年)
山津 苾太 (白峰中二年)
米田 和環 (白峰中二年)
大西 奏 (附坂中二年)



青少年の健全育成作文・特選作品
「ぼくのクラスをオールスターに」
附属坂出小三年 山本 拓実

夏休み、ぼくはえひめけんのはつちやんスタジアムでプロ野球のオールスターゲームを見ました。「オールスター」という英語を調べてみると「すべて」が「星」だということがわかりました。そのとおり、一りゆうのせん手たちが、星のようにかがやいていました。

そんなかがやくせん手たちを見て、一学き学きゆう委員だったぼくは、自分のクラスも同じように、全員が星のようにかがやけたらいいなと感じました。その理由が三つあります。

一つ目は、「ほめあっている」ということです。ホームランを打ったせん手がベンチに帰って来たら、ほかのせん手全員でよろこびほめていました。ヒーローインタビューでも自分がすごいだろうと自まんするのではなくて、バットをかしてくれたチームメイトをほめていました。こうやって、おたがいにほめあうことが大切だと感じました。

二つ目は、「きょう力する」ということです。だれかがヒットを打ってくれらるだろうとか、三しんをとってくれらるだろうとかではなく、自分がチームのためにがんばろうとプレーしていました。一人一人のがんばりが集まってきょう力につながっていると思いました。

三つ目は、「はげまし合う」ことです。フォアボールを出してしまったピッチャーに、まわりのせん手が声をかけていました。元気をもらったピッチャーは、次のバッターを三しんに打ち取りました。はげまし合って声をかけると、ゆう気が出たり、自しんが出たりすることがわかりました。

こういうチームなら、いじめなんて起きないと思います。ぼくのクラスでは、一学きのドッジボール大会で、なか間がキャッチできなかった時に、少しせめてしまったり、声をかけられなかったりしたことがあります。これからは、せめたりするのではなくて、「だいじょうぶだよ」とか「ナイス」とかプラスの言葉をかけて、オールスターチームのようにしていきたいと思いました。

ぼくが目ざすクラスは、一人一人がかがやくクラスです。人まかせにしないで全員できょう力し合って、はげまし合うことが当たり前のクラスです。ぼくのクラスもオールスターの意味のとおり、全員が星のようにかがやけるように努力していきたいです。

青少年の健全育成作文・特選作品
「ボランテア活動を通して学んだこと」
加茂小四年 瀬尾 椿

私の学校では、あいさつ運動やろうか清掃のボランテア活動があります。私は四年生になってから、積極的にボランテア活動に取り組むようになりました。それまでは朝早くに学校に行って、清掃をするのは面倒くさいな、時

文字しかなく、声の調子やひょうじょうが分からないので、どんな風に行っているのか、相手には分からず、自分が伝えたいことと、ちがって相手に伝わり、不安な気持ちや、いやな気持ちにさせてしまうことがあるということです。

そのようなことが起こらないために、言葉選びに気をつけたり、大事なことは、直接会って言うことが大切だと思います。

私はまた、五年生になって、ラインを使い始めました。相手に送る前に文を読み返したり、絵文字やスタンプをつけたりして、直接会って、会話している様子を考えながらメールを送るようになっていきます。また、ラインが使えるのは夜の九時までという家のルールも相手に伝えて、すぐに返事が返ってこないことから起こるトラブルをふせぎます。大事なことは、SNSでも直接話すときでも相手を思いやる気持ちが大切だと私は思います。



青少年の健全育成作文・特選作品
「一日が始まる挨拶」
坂出中二年 渡邊 心菜

「おはようございます」
今年から参加しているマナーアップリーダーズの一員として、私は朝に週

間ギリギリまで家でゆっくりしたいなと思っていました。そんな私がボランテア活動に参加するようになったきっかけは、学校に早く行き、友だちとおしゃべりがしたいという気持ちからです。ボランテアとは全く関係のないことが始まりでした。

早く学校に行くことで、朝の始まりまでの時間が長くなりました。友だちとおしゃべりを楽しんでいるうちに、あまった時間でろうかの清掃をしました。すると、先生にほめてもらえました。そのことをお母さんに話すとお母さんからもほめられました。私はとてもうれしくて、ろうかの清掃を続けてみました。最初は、ほめられたくて続けた清掃も、続けていくうちに楽しくなりました。それに朝は、一日の始まりです。きれいな朝は、一日の始まりと、気分もすっきりして、一日の良いスタートが切れました。

前に友だちがおしゃべりをしているのを見て、一緒にボランテア活動に行こうとさそってみました。来てくれる人もいました。悲しい気持ちになったことがあります。私もボランテア活動に参加する前は面倒くさいと思っていたので、友だちの気持ちがよく分かりました。でも、今はすっきりする気分のよさや楽しくなる気持ちを友だちにも体験してほしいなと思います。

私はボランテアは、学校だけではなく、地いきのいろんな所にあることを知りました。私の習っている少林寺

一回、正門付近に立ち、元気にみんなに挨拶をしている。通りかかる全員に挨拶をするように心がけている。ほとんどの生徒や先生方が私に挨拶を返してくれる。元気な挨拶が返ってくると嬉しいし、朝からとても気持ちがいい。私がこのボランテアに参加しようと思ったのは、一年生のときにいつも元気に明るく挨拶してくれる先輩がいて、少し憧れがあったことも一つのきっかけだ。

これまでの私は、どちらかと言えば積極的にボランテア活動に取り組むほうではなかった。挨拶の返事においても、今思うと気持ちの良い挨拶はできていなかった。一年生になり、立候補した挨拶と清掃のボランテア活動に参加するようになって、だんだんと自分のなかでやりがいを感じ、気付けばその活動が楽しみになっていった。なかでも朝の挨拶運動は、眠気が覚めてだんだんと清々しい気持ちにさせてくれる。

長年続くコロナ禍で、以前は学校が臨時休校になったこともあった。人と人が距離をとるようになって友達と自由に遊べなかつたり、長時間会話ができなかったりと多くの制限下で行動してきた。まだまだコロナ禍は続いているが、今ではこうして毎日登校し、ボランテア活動にも参加できるようになり、マスク越しではあるが大きな声で挨拶ができています。清掃活動も友達と楽しく参加して、きれいになるととても気分が良くなる。

「おはようございます。」は一日の始



青少年の健全育成作文・特選作品
「思いやりの気持ち」
川津小五年 矢野 由結

ツイッター、インスタグラム、ティックトック、ラインなどのSNSが今流行っていて、私もいくつか使っていますが、前に私はラインでつらい経験をしました。

私が初めてラインを使い始めたのは二年生のときで、友達と楽しく会話ができると思い、はじめました。友達と遊ぶ約束をしたり、分らないところを教えてもらったりと、楽しく使っていました。会いに行けなくても、すぐに、やりとりができて、本当に会話をしているように感じて、返事が返

まりの言葉。その一言で気持ちの良い一日がスタートする。挨拶をして嫌な気持ちになる人はいないと思う。みんなが前向きな明るい気持ちになれるように、私は笑顔で元気に大きな声で挨拶を交わしたい。

青少年の健全育成作文・特選作品
「つながりの大切さ」
東部中三年 小野 愛紗

私は今年の夏、卓球部を引退しました。最初は、特にやりたいという気持ちはなく、簡単な気持ちで入部しました。しかし、卓球は簡単な競技ではなく、ラケットの角度で入る位置が変わったり、サーブに回転をかけるのができるようになるまでに時間がかかったり、とても難しい競技でした。でも卓球を練習し続けるうちに試合に出たい。勝ちたい。という気持ちが出てきて、休日に家や卓球場で練習するようになりました。その際に、一緒に練習してくれましたのは友達です。卓球部に入ってから、私はたくさんの友達ができました。

小学校が違う子やあまり話したことのない子と仲良くなることができました。友達は私にとってとても大切な存在です。試合中に応援してくれたり、アドバイスをもらったり、負けたら慰めてくれたりしました。その度にいつも心強く感じるようになりました。私はこのような貴重な経験から、友情の大切さを学ぶことができました。

そして先輩からは、礼儀を学ぶこと



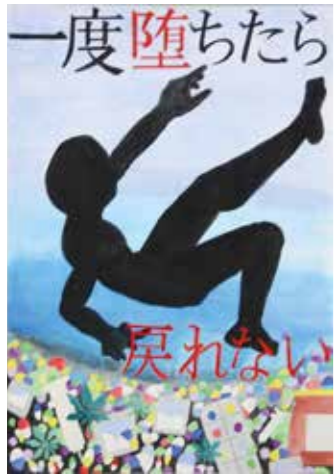
東部小4年 佐古 隼人



坂出小3年 紺谷 芽衣



加茂小1年 水口 明音



白峰中2年 久保 結芽



東部小6年 中澤 凜



東部小4年 田中 琴乃



白峰中3年 包末 あみ



附属坂出中2年 森川 暖愛



白峰中2年 猪熊 苺南

青少年の健全育成ポスター・特選作品

青少年の健全育成 標語・特選作品

まず じぶんから みんながたのしい まちへの一歩
松山小1年 綾野みのり

やらないよ 自分がされたら いやなこと
川津小2年 平尾光汰朗

つたえる前に考えよう あいての気持ち 自分の気持ち
附属坂出小2年 日口 紋那

ともだちと ちがうところも いいところ
坂出小3年 三木ちなみ

SNS ホントの顔は みえている?
坂出小5年 多田羅晴香

まず相談 メールじゃなくって 会って話そう
川津小6年 國重 洸剣

ネットはね 便利のとなりには 危険あり
川津小6年 佐藤 大仁

見てるだけ そんな自分は もうやめよう
附属坂出小6年 菊川 サラ

スマホいぞん 生活リズム くるわせる
東部中1年 津坂彩史李

おはようと 聞こえる声が 心地よい
白峰中2年 宮前 翔仁

見て見ぬふり しない勇気を 持ちたいな
附属坂出中2年 大谷 のん

笑顔咲く 家族の心もあったかい
坂出中3年 三木 七海

ボランティア 参加でつながる 地域の絆
白峰中3年 佐々木 優

思いやり なくなるいじめ 生まれる笑顔
坂出商業高1年 藤本 桃香

あいさつは 心のこもった おくりもの
坂出第一高1年 西山 茉那

ポスターの部 入選者	標語の部 入選者
永瀬 心絆 (附属小1年)	川瀧 真輪 (東部小1年)
福井 智子 (附属小1年)	吉田 羽那 (松山小1年)
小松 蒼 (附属小1年)	野村 豪 (林田小1年)
鎌田 光 (坂出小2年)	酒井 莉菜 (府中小2年)
西山 杏 (川津小2年)	山光 璃子 (東部小2年)
澤田 零 (加茂小4年)	宇多 悠貴 (坂出小3年)
松川 翠把 (附属小4年)	池浦ちなみ (坂出小3年)
荒木 琉花 (東部小5年)	戸未あおば (加茂小3年)
櫻井 優歩 (東部小5年)	澤田 蓮 (加茂小3年)
猪熊 來南 (林田小5年)	新谷 晴 (加茂小3年)
三木 綺羽 (坂出小6年)	田中梨桜翔 (金山小3年)
田村 明夕 (坂出小6年)	大林 璃沙 (川津小3年)
菊池 恭正 (東部小6年)	酒井 汐織 (加茂小4年)
富山 心愛 (東部小6年)	猪熊 咲斗 (林田小4年)
荒井 結月 (加茂小6年)	小賀野一花 (東部小5年)
土井 美来 (川津小6年)	北口 泰司 (西庄小5年)
野保 瑛太 (川津小6年)	瀬尾 陸 (川津小5年)
難波 もも (松山小6年)	平田 心 (附属小5年)
松浦 優季 (東部中1年)	武田 悠生 (東部小6年)
西山 遥稀 (白峰中1年)	三谷 悠 (加茂小6年)
三野 広渡 (白峰中1年)	茶本 健介 (坂出中1年)
新名かのん (白峰中1年)	田中 美久 (坂出中1年)
高木 一誠 (附属中1年)	山中 恋 (東部中1年)
児玉 紗和 (東部中2年)	一色 うた (白峰中1年)
森奥 紅愛 (白峰中2年)	林 恋次 (東部中2年)
香川 明泉 (白峰中2年)	行成 仁 (瀬居中3年)
大林 海翔 (附属中2年)	宮武 航平 (坂出中3年)
片山萌々花 (附属中3年)	谷口 千恵 (東部中3年)
谷本 琉衣 (坂商高1年)	上原 樺恋 (白峰中3年)
松本 昂大 (坂工高1年)	池田 晴香 (附属中3年)
	鳥越 結衣 (附属中3年)
	矢野 隼希 (坂商高1年)
	岡崎 七海 (坂工高1年)
	中野 菜月 (坂一高1年)
	柏民 桜幸 (坂一高1年)